

第210回:頼むから訊かないで

習近平時代に入って2度目の「两会」、即ち全国人民代表大会(全人代)と中国人民政治協商会議(政協)が、今週より北京で同時に開催される。この二つ、たとえば悪いが共産党の指導下にある実質権限のない衆議院と参議院のようなもので、共産党が命じた方針を追認執行する機関に過ぎない。内外から「政治花瓶＝お飾り」と揶揄されるような存在だが、そうは云っても中国の最高指導部が一堂に会する重要行事であり、例年この時期になると燕京に厳しい警備体制が敷かれるが、今年に限って言えば「未曾有の厳戒態勢」だそう。当然だろう。昨年11月、共産党の三中全会が開催される直前に、天安門広場の毛沢東肖像前で、車両の炎上事件が発生し、その直後に今度は山西省太原市の共産党本部前で連続爆破事件が発生した。これら一連の事件に対し当局は、少数民族や反体制派によるテロ事件と公表しているが、いずれも依然として詳細不明なままとなっている。かかる不祥事が二度と発生しないよう、北京のみならず全国の公安当局が神経を尖らせている理由はよく分かる。

ところが、そんな公安当局の面子を丸潰しにする無差別テロ事件が、北京から二千キロ南方に位置する雲南省で発生した。現地報道によると、昆明市(雲南省の省都)の昆明駅で3月1日夜発生した無差別殺傷事件で、死者は少なくとも29人、負傷者は143人となった。昆明市当局は2日、事件現場の状況から新疆ウイグル自治区の独立勢力による組織的テロとの見方を示した。都市で発生した殺傷事件としては習近平指導部発足後で最悪の惨事であり、5日に開幕する全人代を控え治安対策を強化していたなかでの大規模テロ事件だけに、指導部が衝撃を受けないはずはないだろう。これだけ大規模なテロ事件と聞けば、犯行は爆弾か銃器によるものと誰しも思う。ところがネットの書き込みや香港メディアの情報によると、犯行グループは全員が黒い服ないしはブルカのようなものを着用し駅の乗車券売り場に並んでいた人たちに刃渡り数十センチの蛮刀で襲いかかった。駅頭は逃げ惑う人々で大混乱に陥ったと云うが、身の毛がよだつ恐ろしい凶行で、まるで拳匪の義和団事件だ。列強から恐れられた義和団が、中国史上最強の大清帝国の息の根を止めた…これは深い含蓄のある歴史的事実である。

それにしても中国の公安はだらしない。広東省から始まり、全国各地に蔓延する風俗産業を取り締まり、貧しい出身の風俗嬢を逮捕するようなヤボなことをする前に、やるべきことがあるだろうと思うが、羅卒にも若干気の毒な側面がある。胡錦濤から習近平への政権交代時期に、文化大革命のような政治運動を企てた薄熙来(政治局委員)が失脚し、彼と同盟を組んだ周永康(政治局常務委員)がいま身柄を拘束され厳しく取調べを受けているなかで、これまで周永康の金城湯池として栄華を極めた公安・検察・武装警察・諜報の大幹部たちが習近平の返り討ちに遭って多数失脚しており、共産党の誇る暴力装置にいま相当のガタが生じている。

その周永康事件だが、習近平が「虎も蠅も容赦せず叩き潰す」と啖呵を切ったわりには、いつまで経っても梨のつぶてである。周永康の息子や歴代秘書官の大半が逮捕されている状況証拠から見て、彼は99%失脚しており、軍か公安の関連施設で身柄を拘束されているはずだが、当局はウワサを肯定も否定もせず、歌舞伎じゃないがダンマリを決め込んでいる。そうこうする内に時はめぐり、習近平政権2回目の全人代が

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

迫ってきた。これまでの慣例では、大会が終了すると直ちに内外の記者を集め、実況中継で首相記者会見が開かれることになっており、今年は外国記者から「周永康事件」について真偽を問う質問が出て来るのが目に見えている。そこで李克強首相が回答を拒否したり、ノーコメントと発言したりするわけにはいかないで、いま共産党宣伝部と國務院の幹部たちは必死になって世界が納得する想定問答の回答を書いているはずだ。

その李克強首相の露払いとして、きのう登場した小者が全人代と同時に開催される政協の呂新華報道官である。外交部で副部長を経験した呂新華報道官は昨日の政協記者会見で、安倍首相について「A級戦犯が祀られている靖国神社に参拝した安倍首相は中日関係の政治基礎を壊し、中国政府と中国人民の信頼を失った」と名指して批判した。そんなことはどうでもよい発言で、いちいち目くら立てて論評するに値しないが、国内外のマスコミが吃驚仰天したのは、香港の南華早報(サウスチャイナ・モーニング・ポスト)から「周永康失脚のウワサ」について問われたときの彼の回答である。

私もみなさんと同様に各地のメディアによって情報を得ている。2013年、中央規律検査委員会と監察部は違法行為と紀律違反を犯した中央の幹部31名の処分を行った。そのなかには閣僚級も含まれている。われわれは高級幹部も含め幹部層を厳しく取り締まっている。どんなに地位が高くても、党規や法律を犯した者は厳しい調査と処分を受けなければならない。これはホラ話ではない。

我只能回答這樣了、你懂的(=私に言えるのはここまでだが、みなさんは分かるよね。)

もちろん分かりますよ。ずいぶん待たされたが、中国当局が遂に周永康失脚を公に認めた。報道によると呂報道官は、目を下にやりながら、ゆっくり回答したと云う。そう、想定問答を読んだのである。もちろん、呂氏が個人的に作成した想定問答ではなく、少なくとも宣伝部門を司る序列5位の劉雲山政治局常務委員の承認を得て、もしかすると習近平の了解を得たかもしれない回答書である。これが来週開かれる李克強首相による記者会見の前触れ発言である。李克強は呂新華報道官の発言を受け、周永康の罪状と捜査の進捗状況を公表するだろう。正直に発表すると周永康の罪状は、拷問、殺人、買春、盗聴、横領、贈収賄等々、刑事訴訟法のオンパレードとなるだろうが、そこは武士の情けか、政治的配慮か、はたまた政治取引か、最終的には金銭絡みの経済犯罪と結論付けるのだろう。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成26年3月3日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

①株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2075%（税込み）（約定代金が260,869円以下の場合、3,150円（税込み））の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額（現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額）に対して最大0.8400%（税込み）の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込（一部の投資信託は換金）手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大0.0840%（税込み）の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大4.20%（税込み）（約定代金が2,625円に満たない場合は、2,625円（税込み））の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。